

業績不振、高齢化、人手不足、そして後継者不足に苦しむ日本の中小企業。そんな中、手島精管株式会社は手島由紀子氏のもと、業績をV字回復からさらに発展させ、世界的メーカーへと変貌を遂げようとしている。現在では医療用注射針精密ステンレスメーカーとして、グローバルビジネスを展開。その成功の裏には徹底した組織改革への取り組みがあった。

「日本は産業界自体の高齢化が相当進んでいます。その中で、二代目、三代目の方々が相当苦勞されていると感じています。おそらく先代の会社の文化、組織の改革がうまくいっていないのではないのでしょうか。現代では、中小企業であっても働き方

製造業の改革は職人からエンジニアへ



改革、労働時間短縮、女性活躍、そういったコンプライアンス抜きでは成り立ちません。法令順守を整えて、企業としての当たり前前することをやらなければ存続できないのです。

手島社長が先代から事業継承した際の風当たりは相当きつかった。日本には村社会というものがあ、法令順守よりも仲間間に忠誠を尽くすことが尊ばれる。特に製造業などの職人的風土であればより一層その色は濃くなる。そんな中でも正しいことを行っている、その信念で先頭を切って改革を断行した。

「製造業とは職人の仕事でした。しかし、私はそれをエンジニアにチェンジしたんです。肌身の経験ではなく、技術を数値化し、それがエンジニアです。その育成にはプロセッサーや評価制度といった教育システムを作り上げて技術を伝えました。脱年功序列、脱職人のためには数値化と情報の共有が必要だったのです。」

このシステムが整うと業績は回復していく。中小の製造業に新しいカルチャーを持ち込み、実績を残していったのである。その後も手島氏は改革を推し進め、エンジニアに自由と責任を与え、目標達成に自立的に向かえる体制を整え、徹底した情報開示と的確なコミュニケーションをもたらし、情勢改革を行い、社員にスキルアップのための教育機会を提供していった。こうした積極的な社内改革が、手島精管に好循環をもたらし、発展のカーブを描くようになったのである。

グローバルメーカーとしての歩みを。

群馬県にある手島精管株式会社は、1970年創業の医療用注射針に特化したメーカーだ。父から会社を受け継いだ手島由紀子氏は古い企業風土を一掃し、会社を再生発展の上昇カーブに乗せた。それは旧体制に真正面から立ち向かった手島社長の改革への覚悟と勇気の表れである。彼女の経営には、これからの中小産業が成功するためのヒントに満ちている。

TEXT BY AKIRA ISHII PHOTOGRAPHS BY SHOGO SATO
DIRECTION BY FUMITO INOUE

The Most Influential People From TESHIMA CORPORATION Episode 001

1972年生まれ。群馬県出身。短大を卒業後、貿易会社に勤務。1996年に渡米。語学・経営学を学び、一時帰國のち再び渡米する。2008年にMBA(経営学修士)を取得。帰國後の2014年、手島精管株式会社代表取締役社長に就任。2019年には群馬県総合計画策定の有識者メンバーに起用。

Yukiko Teshima

手島精管株式会社 代表取締役社長

手島 由紀子

ファーストムーバーとグローバルを駆け回る

手島氏は、若くしてMBAを取得し、アメリカのビジネススマインドを取り入れて成功した数少ない経営者の一人でもある。またそれと同時に、日本のモノづくりそのものに対して強い自信を持った経営者の一人でもあることも確かだ。頻繁にビジネスで海外へ出る手島氏は、「モノづくりに関してはメイドインジャパンにかなうものはない」と言い切る。特に精密機器、メーカルの世界では圧倒的に優れる日本の製造業だが、これからメイドインジャパンが進むべき道はどこにあるのか。

「何よりも製造業の方々にはクオリティに誇りを持っていただきたいと思っています。ただ二つ課題を挙げるとすれば、モノづくりにグローバルな視野を取り入れていくべきだと考えます。親会社からの発注を待つのもこれからの発展はありません。自らマーケティングの知識を得て経営をしていくべきなのです。いい部分は残して変える

べきところは変える。維持も大事ですが発展はさらに大切。これからの経営者は変えるべきところを見抜く視野、知識、判断基準が重要になると思います。」

そして手島氏は、自らも変革の時期だと語る。これまでは会社のトップとして自らが二線まで走り続けてきたが、そうした責任ある役割を積極的に社員に任せ、自身は海外の新規ビジネスに集中的に取り組む予定だ。またISO14000の取得に伴い、既存ビジネスと並行して環境保護の観点においてもマネジメントシステムを確立し、地球を視野に置き活動している同社。それに伴い、時代に即した方針を掲げ、2015年9月に国連で全会一致で決議されたSDGsの取り組みも強化していく意向である。

そして手島氏は今日も、世界を飛び回る。ファーストムーバーとしての勇気と覚悟を持って、すべては目標達成のために。